

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

行動変容を促す科学コミュニケーション手法の開発と地域実装

～意思表示の増加による移植医療の課題解決にむけて～

2. 提案機関名

学校法人同志社 同志社大学

3. 提案企画の概要

我が国における臓器提供不足に起因する患者の治療機会の逸失は、深刻な社会的問題の一つである。本企画では、10,000 例を対象とした実証研究から得られた知見を基に、臓器提供意思表示を具体的な行動として、従来の知識伝達にとどまらない、「行動変容を促すコミュニケーション手法」を開発する。市民に対するその実装を通じ、意思表示を倍増させ、社会問題の解決を目指す。その際、本企画が単に臓器提供者を増やす取り組みとして理解されないよう、十分配慮しながら進める。さらに、実行動を促す科学コミュニケーションの在り方・技法について、汎用的なモデルを提供し、科学コミュニケーション人材の育成にも寄与することを目指す。

4. 企画の特徴

本企画の特徴は 4 点ある。まず 1 点目は、10,000 例の仮説検証型研究から得られた知見を社会実装するエビデンスに基づいた活動である。

2 点目は、新しいセグメンテーションと独創的な介入方法を用いて行動変容を促すことである。従来の啓発活動は、年齢、性別、ライフスタイルなどの人口動態変数による細分化をすることがほとんどであった。しかし、各人の「行動ステージ」に着目しセグメントとし、その段階の層の人々を次の段階へと移行させるために必要な介入方法を開発する。研究結果より、着実に行動に結びつけるためには、従来の知識伝達を主眼とする啓発的コミュニケーション活動では限界があり、対話などのコミットメントを主軸としたコミュニケーション活動が不可欠であることが明らかとなった。行動科学、ソーシ

マルマーケティングの理論などを応用し、確実に行動変容に結びつける手法を開発する。

3 点目は、実行動を促す科学コミュニケーションの在り方・技法について、汎用的なモデルを提供し得る点である。本企画で開発予定の「実行動を促す手法」は、喫煙行動、健診行動など、社会的に必要な行動に適用し得ると考えられる。また、さまざまな科学技術を背景とする課題に関して、実行動を促す科学コミュニケーションの在り方・技法が求められており、汎用的なモデルの礎になる可能性を有すると期待できる。

4 点目は、将来的な科学コミュニケーション人材の育成につながる点である。本企画は活動主体を大学生としている。これには二つの意義がある。一つは、運転免許の取得、親元を離れ保険証を自分で持ち始めるなど、大学時代はライフステージの中で最も意思表示に触れる機会が多い。当事者である大学生が自発的に考えるコミュニケーション手法は、より現実的かつ成果に直結する可能性が高いと考えられる点である。一方、大学の課題解決型学習として進めることで、将来的な科学コミュニケーション人材の育成がなされる。さらに、そのプロセスから人材育成、大学教育の方法論など多くの示唆が得られると想定できる。

5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

精力的な調査や活動を行い、意思表示率の増加、行動変容促進モデルの構築に成功した点は評価できる。さらに、数値目標をしっかりと定めていることにより、活動内容が明確化している。また、様々なアプローチで行動変容を促しており、研究領域にも関わっている。

「家族のため」と臓器提供意思表示の価値をとらえなおすことで、意思表示率や家族等との臓器提供についての対話が増えたとの結果は、他の事案にも参考になる成果である。今後は、大学生対象の企画を、様々なステイクホルダー向けのプログラムとして確立していただきたい。

6. 実施者からPR・感想について

日本国民の臓器提供意思表示率が 12.6%と低いため、治療機会の逸失、家族の心的負担が引き起こされているという社会課題を取り上げ、意思表示行動の促進を具体的活動目標とした。大学のゼミで NPO “Share Your Value Project” を創設し、10,000 例を対象とした実証研究から得た知見を基に、「人や社会とのつながりを大切にする共想」という新しい価値の普及を通し、行動変容を促すコミュニケーション手法の開発を試みた。

サイエンスアゴラへの出展、クリスマスチャリティイベント、facebook 企画などにおいて、ターゲティング、コンセプトを明確にしたコミュニケーション活動を行った結果、

意思表示率は 19.6%→51.4%と向上し、90%以上の人の行動変容を促すことができた。また、活動の測定尺度、評価指標、活動ポートフォリオを探索的に開発し、今後の確立への礎を築いた。これらの活動は、新聞、テレビなどでとり上げられ、学生達の誇りにもつながった。

さらに、本企画の活動を通し、学生達の満足度、自己成長度、考え抜く力、前に踏み出す力、チームワークは有意に向上し、科学コミュニケーション人材の育成につながった。



2枚の写真とも、ソーシャル・マーケティングを適用して行動変容を促す効果的な活動

以上